



建コン協東北が講演会

建設コンサルタンツ協会東北支部（遠藤敏雄支部長）は4日、仙台市青葉区のホテル法華クラブ仙台で、2009年度講演会を開いた。写真。建設投資の急激な減少、さらには鳩山政権による公共事業費の削減方針が打ち出される中、「真に必要な社会資本整備を目指して」をテーマに、森杉壽芳東北大学大学院特任教授と三村三千代八戸短期大客員教授が持論を展開した。



冒頭、遠藤支部長は約200人の参加者を前に「来年度の公共投資予算は30年前に匹敵し、ピーク時の45%にまで減少すると言われている。当業界の関連予算も急激な落ち込みが予想される」として、「東北地方の厳しい自然環境や、大規模地震の発生確率を考えると、社会資本整備はまだまだ足りず、早急な対応が迫られている。真に

森杉氏 高速道無料化は望ましくない



必要な社会資本を適切に評価・予算化し、計画的に整備していかなければならない」と強調した。この後、「真に必要な社会資本整備とは」と題して講演した森杉教授は、鳩山政権が実行しようとしている高速道路の無料化に対して、独自の計算にもとづく最適料金水準を緊急提言した。森杉教授は「日本の高速道路料金は、（有料制度を取っている）他の先進国に比べて5倍程度高く、利用者が非常に少な

三村氏 謙虚に長い目で社会資本整備

い。これでは、高速道路がないに等しい」と前置きした上で「混雑していない高速道路の料金は無料でいいという理論もあるが、公的資金の限界費用が存在することを考慮すれば、望ましいとは言えない」と指摘。さらに、「最適料金は交通量や時間価値などにより、それぞれの区間で異なるが、数式で計算できる。おおよそ現在の半分程度の料金が適正ではないか」と語った。また、「日本人は、古くから話合いでものごとを決めてきた。技術、古代の知恵、現代人が学ぶべきこと」と題して講演。この中では、三内丸山遺跡の発掘でわかった縄文人の技術や、薬師寺建立に使われた技術、平城京の都市計画などを紹介しながら「古代人の技術や知恵は、ある意味で現代人をしのぐものがある。今あるものが当たり前ではなく、長い積み重ねによって現代の社会があるという謙虚な気持ちになることが大事だ。本当に必要な社会資本整備は、時代によって変わっていくが、今だけを考えるのではなく、長い目で見ていかなければならない。そのためには技術者を育て、残していく必要がある」と話した。